

一ヶ年間の

檢舉洩れは

僅かに十五件

平署超記録の好成績

平警察署に於ける昨一ヶ年間の事件発生件数は三千八百十八件で檢舉件数が三千八百三十三件に及び此れ外管外よりの依頼で檢舉したのが五百四十三件あるから計四千三百四十三件を數へる好成績を示してゐるが事件の主なるものは窃盜の千九百十九圓を筆頭に詐欺七百七十七件、業務上横領四百八十一件、傷害七十二件、放火殺人未遂各四件、強盜六件、賭博六十三件等々でこれが被害額は一萬九千二百八十五圓十錢其内現金四千九百六十圓五十五錢、衣類二千八百五十三圓十九錢、金物類二千五百八十八圓九十六錢等である。

土木設計

實地査定

平町土木委員會は来る十八日午前九時から開き來年度の豫算に計上される土木工事設計箇所を實地に査定すると。

捕鯨巨船

小名濱に入港
日本捕鯨會社の捕鯨船

に金華山沖合で試験的に就業すると

自動車の

検査場所

借入願協議

平支部自動車協會は来る十八日午後一時から平署會議室に幹部會を開き近く八幡小路(舊警中グラウンド)に新設される自動車検査所新設町有地二百坪借入願書提出の件に就いて協議する由

續々出發する

平町の入營兵

平町から一月廿日夫々入營の爲め出發する壯丁左記の如くである

- 齊利春
- 同日午前八時廿分
- 山砲(高田)彌宜町小野幸吉
- 同日(田町)篠原善治
- 一月十八日午前八時卅分
- 步兵(青森)四丁目及川浩

高麗橋を中心として

眞木翁の懷古事談

奇傑 江政敏(六)

江が十勝移住後に於ける漁業上の活動は天田愚庵の書いた左掲傳記に詳かだ、此傳記は農商務省へ提出の必要上起稿せるものにて江は適々旅行不在なりし爲其妻女の口述に基き寄寓中の愚庵が筆に上せたものなるも半生の閱歷に止まつて居るは惜

むべしだ。
江政敏傳(節略抄記)
君の十勝に移住するや先づ一小店を開き彼の餅子を販ぎ以て本業となし傍ら雜貨の賣買勵精晝夜を問はず或は風雪の日の營業せざるに乘じ、自ら片舟を浮べ餅子を載せ遠く川源に溯りて之を沿岸に販賣す此の如くすること、餘十四年の秋

四十七士に假裝

好間公民學校生徒が

美譽を追慕

好間村第二實業公民學校は赤穂浪士が舊歴師走の十四日(来る十八日)に見主君の本懐を遂げた日を卜し午後六時から同校で義士祭を催し義士に關する講演會を開き生徒の朗唱、詩吟、義士の假裝、浪曲等ある由

販賣利用總代會

平町の調査

石城販賣利用組合の總代會は来る廿五日午前十時より

平町役場調査の舊臘中絹織物産額は縮緬百二反七百六十五圓、銘仙及節織十二反四十二圓、其他九反でこれが合計価格は八百十六圓

電話法規研究 平郵便局は本日午後一時より局

に至り若干の資金を剩し初めて一漁場を購ふ是れ、實に君が産を漁業に立つるの第一着手とす時方に漁期に迫り、近傍の場所漁場に數十石(一石は六十尾なる如し)を漁獲するものあり、而して君の場所たるや流水多く水底に繋りて以て網を下すべからず是に於て急に數百人を役し僅かに其障害を除去して網を投下するに數日の後僅かに七尾の鮭を捕獲するのみ初め君の網を下さんとするや雀躍して曰自今我にして此の事業を得ると、而して其結果此の

内電話係員の法規研究會を開いた

磐東銀行總會

磐東銀行の第七十八回株主總會は来る二十八日午前九時から同行で開き決議報告其他の件に就いて種々協議するが今期の純益金は二千五百七十六圓三錢二分四厘の配當を行ふ由

植田果苗配布

植田町農會は豫ねて郡農會の幹旋に依り柿苗及び梅苗一千本を購入此程會員に夫々配給したと

中堅農民同窓

郡農會中堅農民同窓會湯本町支部の發會式は今十五日午前十時から同町水野谷公會堂で舉行された

凶作工事検査

平土木監督所小林所長は昨日三

坂村に出張同村に於ける凶作對策工事及び下三坂地内に於ける高橋の竣工検査を行つたが前記高橋は工費三千餘圓を以て昨年八月着工したもので近く落成式を舉行する由

平町人事

回婚 姻
△小川村字後平八四柳田三郎(三三)氏 櫻町三二及川(三〇)さん

美味!
芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

市原醫院

平町 田町
電話一四番

湯本の怪火

一青年の仕業 平署現場に張り込んで 犯人を引捕ふ

去る十二日の夜半から十三日の曉方にかけて湯本町水野谷小野八十吉氏方室東から二回程放火したので平署はてつきり放火と睨み安藤部長始め渡部司法主任等が同町に出張警戒中であつたが亦もや昨十四日午後八時頃同町大字水野谷字龜野雜貨商志尾崎義雄氏方の肥料小屋より放火したため一層放火の疑ひ有力となり犯人捜査中の處附近を徘徊してゐた舉動不審の男があつたので直ちに取調べの結果此男は前記志尾崎義雄(三七)の隣家に住む志尾崎猛で自分が放火した旨自白した

火事泥が

目的で放火

炭礦を解雇され 生活難に陥つて

解雇の原因は性行不良

別項放火犯人志尾崎猛(三七)は元入山炭礦後山夫に雇はれてゐたが性行不良の爲め解雇されてルンペンとなり前記の場所に住んでゐたが思ふ様な仕事にもありつけず益々生活難に陥るばかりなので火事騒ぎに乗じ窃盗を働く目的で放火した旨遂に自白した由

入山炭礦餘技展

入山炭礦では廿日から三日間従業員餘技展覧會を開催し二千従業員商の寫眞、繪畫、手

大根で

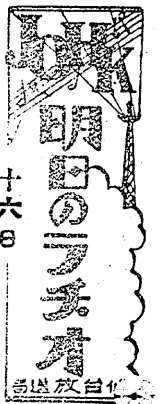
偽造印

豚の横腹へ
石城郡湯本町字三箇食肉商鯨岡正治(四〇)は密かに自宅を屠殺し大根で偽造し

風物に

因む地名

本縣地方課に勤務する兒山縣屬は職掌柄に基き縣内町村名に自然の風物にゆかりある地名を調べたが本郡内の分は左記の如くである
(林野原に因む)飯野 上野
(遠野に因む)飯野 大野
(河川池に因む)上小川 下小川 川前 川部 玉川
(海邊に因む)小名濱
(季節に因む)夏井
(色に因む)赤井
(岩石に因む)石住
(神社に因む)鹿島



十六日
報録氣天
今晩は南東の風
曇り明日は北西
の風曇時々晴

鬼の主人に

伸びた司直の手

植田町料理店小柳柳柳内忠吾(四〇)は昨年五月頃から田人村藤井ふじさんの三女島子(三)を藝妓の仕込に預かつたが女中代りに追ひ使つて三度の食事も満足に與へない仕末に本人も居たゝまらず主人に鞍替を願つた處勝手に親の承諾書やその他の書類を偽造名古屋方面に四百五十圓で酌婦に賣飛ばし一錢も親元には送金もしなかつた事發覺目下植田署で取調中であるが柳内は先にも十三才の半玉に無理に客を強ひ悪性の病氣を感染せしめ問題を惹起した男である

道武川、阿部劍道藤井、麻原の諸氏である由

盗人走る

密告されて

平町舊城跡古物商小蘇網夏

平館の

本日輝

平館に上映中の輝く日本はフォックス社が決定的に撮影したオールトーキーである文に上海事變を皮切りに躍進する祖国日本の姿を記録して餘さず真に非常時の認識を深むる上に優れた場面が珠玉の如く光つて居る就中國國際聯盟

後九三〇時報
ス 氣衆通報 香紙豫告
明日の部
前七三〇 聖典講義 大
學五文學博士 秋月胤繼
前一〇三〇 婦人講座
「圖案の手ほどき」(二)廣
川松五郎
後一〇五〇 ハワイ音楽
モアナグリークラブ
後二〇〇〇 母の時間「若
い人々の交際」安部磯雄
後三三〇〇 春場所本相撲
實況(六日)兩國國技館
より中繼

子殺し母親に

懲役五年求刑

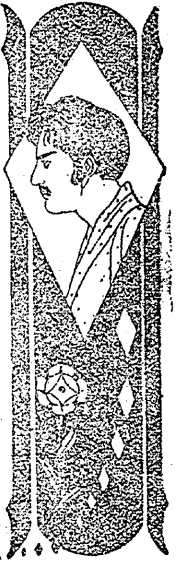
ヨ(三)が夫淺治に家出され極度の生活難に陥つた結果長女キヨ(五)及び長男利男(二)の兩名を絞殺した事件の公判は今日午前十一時より平支部で中島裁判長係り開口。香西兩判事陪席、酒井官選辯護士列席の下に開廷されたが事實問の上検事より懲役五年を求刑された判決は来る二十二日午前九時

平職業紹介所報告

回人を求める方
△女中 二十三才 尋卒
月五、六圓
△農夫 三十迄 尋卒 年
給八十圓位
△鮮魚店員 二十六才 尋
卒 月十圓
△雜役 二十才 尋卒 月
十圓
回職を求める方
△紡績男工 二十四才 高卒
△手袋内職 三十五才 尋卒

木村科醫院

平町六丁目橋際
電話三〇九番



明治太平記

(作) 寺島征史
(畫) 野口 運

第二十九回 大官と野人(一)

「だが、大志賀」

「は」

「ひとりぐらゐ、おぬしのやうな人間も、をつてよいよ」

「え」

「萬人が萬人、時勢に馴致し文明開化を追ふて小利巧になり、大臣參議を夢みて名利に吸々とされては、これまた困つた結果にならう浮雲に高樓を建つるやうなものぢや。大志賀、おぬしあくまでもその大隈、廣澤等を刺殺せんの大望をすてずにつて貰はうか」

「……」

「大志賀、わしの意向がわかつたか、わかつたらそれでよい。この建白書はきつと物言はしてみせよう。おぬしはそのかはりいつまでも市井に隠れて當路の横道をいましめてくれ……あ、もう話はこれまでで切上げ……酒ぢや、酒にしようこりや、誰ぞ居らぬか、酒をもつてまいれ」

萬世橋から、九段の方へのろろ歩いて、小川町から少し行つて右へ反ら

「坂をのぼつたところがアタリ臺——いまの駿河臺そこにははや秋風が吹いてゐた。一人の男が、さつきからロハ臺に腰かけ、宵風に吹



煙を口邊から吐いてをる。悠々と、閉々として、いつまでもロハ臺から腰をあげようとしなない。人待顔でもなく、さりとて疲れ切つてゐる風もなく、赤銅色に日に焦けた頑健な顔が、夜目にも生々としてみえる。——さアて。やツと、小一つ時だつて腰をうかしたとき、

「もし、火をお貸しください」

ぬつと、だしぬけに顔を突き出したものがある。

かかれてゐる、棒縞のシャツ

のうへに筒袖の裾短かな袴を引かけ、半長靴をはいたずい分厚くらしい身振りだが、ちよこなんと維紗帽子をのせたその下が當世流に涼しさうなザンギリだつた。

そのうへ、彼はその不調和な身振りにも似ず、せい

「火?」

「へい、その煙草の火を、ちよいと」

いつたん、あげた腰をふたたびロハ臺へ据ゑてくらやみから牛のやうにぬつと出てきた男に、煙草の火を貸さうとしたとき、その男は、馴々しく寄添うてきた

「旦那、煙草の火と、申しましたか?」

妙にねち／＼した物の言ひ振りなので、棒縞シオツの三十男は、じいとその顔を覗いた。

「旦那、そのシガレットを少々」

「これかね」

くはへてゐた紙巻煙草を指のあひだに挟んで相手の眼の前へ突き出してみせた

「そいつを、ほんの少々わつしに吸はしてみてください」

「ほう。おまへさん、そりア、本氣で云はしやるかね……」

「へえ、恥も外聞も忘れておねがひしてゐるんで……」

「實ア、旦那、わつしはね、今朝、禁獄舎から娑婆へ突き出されたばかりの何一つ口へ入れてない空腹い身なんです」

「ふん……」

市子おき

魚問屋

最優最大日本生命平代理店
志賀盛榮
平四丁目(電二三一)

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

貸切の御用命は

ぜひ、三井自動車部へ!!!

電話六八五番

◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行

貸切の御用命は!

電話六四〇番

尼子タクシーへ

是非お願いいたします

遠乗りには特に御相談に應じます

(非常時)

燃料報國の大特賣

火鉢附煉炭大賣出し

煉炭十四ヶ(一ヶ五錢) 壹組
三徳火をこし 壹圓七拾錢

日本一クサクナイ煉炭、豆炭

演通り代理店
驛前 酒井伴城商店
販賣店
三丁目 磐崎屋酒店

磐城共濟病院

(福島縣平町) 電話六四二番

小兒科	院長 石山謙一郎
婦産科	部長 平賀一忠
外科	部長 五十嵐雄二
耳鼻咽喉科	部長 大町久藏
皮膚泌尿器科	部長 澤田正
花柳病科	部長 前田
X光線科	部長 石山謙一郎
衛生試驗所	部長 石山謙一郎
藥局	局長 高木孝平
藥劑科	局長 鈴木寶雄
事務局長	鈴木寶雄

◎毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎夜間診療開始(毎夜十時後十時マデ)
◎病室完備 院隨意